

届けます。あなたの思いを**県政**に。

# 高島和男

投票日は**2015年4月12日**

熊本で生まれ、熊本で育ち、  
熊本で学び、熊本で働き、  
熊本で歳を重ねる…。

一生熊本で暮らせる  
熊本づくりに  
全力で取り組みます！

「人口減少社会」今、盛んに耳に  
します。これは他都市の話ではなく、  
現に私たちの住む『くまもと』でも  
極端に人口が集中している地域と  
減少している地域で格差が生じて  
います。

私には現在大学生の2人の子ども  
がいますが、長男の同級生で東京  
や大阪に進学した子どもの多くは、  
そのまま帰熊することなく就職し  
ました。親御さんと話すと「くまも  
とに帰ってきてね…」「働く場所  
が…」とのことでした。本当にさび  
しい、悲しい…。しかしこれがくまも  
とを含めた地方都市の現状です。

私はくまもとの流出を食い  
止めるだけでなく、再び「呼び戻す」  
魅力ある『くまもと』づくりに取り組  
みます。



## 熊本市選出の県議会議員の役割とは

### 1 熊本市の方針を十分理解した架け橋となる議員が必要

政令市の先行都市をみても分かるように県と市は表裏一体の関係にあり、どちらか一方だけが良くなる、悪くなることはありません。まんじゅうもあんと皮の絶妙なバランスがあってこそそのものです。今後より一層、県と市は志を同じくし、

スクラムを組み、連携を深めることで『くまもと』の更なる進化を目指さなければなりません。高島和男のように熊本市の方針を十分理解した架け橋となる議員が県政には必要です。

### 2 県の税金の使途をチェックする議員が必要

平成24年度決算において、熊本県民が納める県民税は、総額1,275億円。そのうちの約56%にあたる714億円は、熊本市の法人、個人が納税しています。人口においても県民

181.7万人のうち熊本市民は全体の40%を占める73.4万人を要しています。熊本市民の代表として県の税金の使途をチェックする議員が必要です。

### 3 大局的な視点から県政を思考する議員が必要

市が政令市に移行したことで県の仕事の約1,500項目が移譲されました。現在県は経済、産業振興、防災、交通、警察・治安、高等教育、港湾・河川の維持管理・整備が主な役割になりました。東日本大震災からもわかるように県民・

市民の命と安全に関わる部門において、県の果たす役割、責任が増すことはあっても減ることはありません。大局的な視点から県政を思考する議員が必要です。

県議会議員候補

高島和男は **西・南区** 定数 **5**

#### プロフィール

S39.2.15生まれ A型 身長182cm 体重82kg

略歴：春竹幼稚園(現 熊本音楽幼稚園)卒園  
熊本市立田迎小学校・託麻中学校卒  
熊本県立熊本西高等学校卒  
熊本商科大学経済学部卒  
平成15年4月より熊本市議会議員(二期)  
平成23年4月熊本県議会議員選挙へ  
挑戦したものの9710票で落選  
田迎小・託麻中PTA会長・尚綱中学・  
高校育友会会長歴任  
保護司

趣味：読書(ベストセラーから歴史、推理まで幅広く)  
スポーツイベントの開催  
(ミニバレー、ゴルフ、グラウンドゴルフ)  
モットー：人の輪をつくること、いつも楽しく

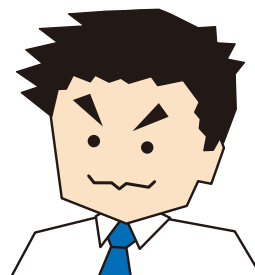
高島和男サポーター募集中です!

<http://www.takashima-kazuo.com/>

ホームページでは、写真付日記を毎日更新!

Facebookもやっています!

後援会事務所 熊本市南区江越2-1-9  
TEL.096-288-6004  
FAX.096-288-6009





# 県議会議員として 高島和男が取り組む

# 一生熊本で暮らせる『くまもと』づくり

## 熊本で生まれる

高齢出産の場合、母体、胎児へのリスクが高まるため、高度な母体管理が必要となります。

現在、県内4つの医療機関のNICU(新生児指定集中治療室)が満床だったり、母体や新生児の病状次第では県外搬送を余儀なくされています。

県外搬送は母体・新生児はもとより家族にとっても大きな身体的、精神的な負担があります。



私はくまもとに住む女性が県外へ搬送されることなく、安心して出産できる、高度な専門機関の創設に取り組めます。

## 熊本で育てる

今の子育ては核家族が進み、親族の支援が受けづらく、労働時間も長い父親の子育ての参加が難しいのが現状です。

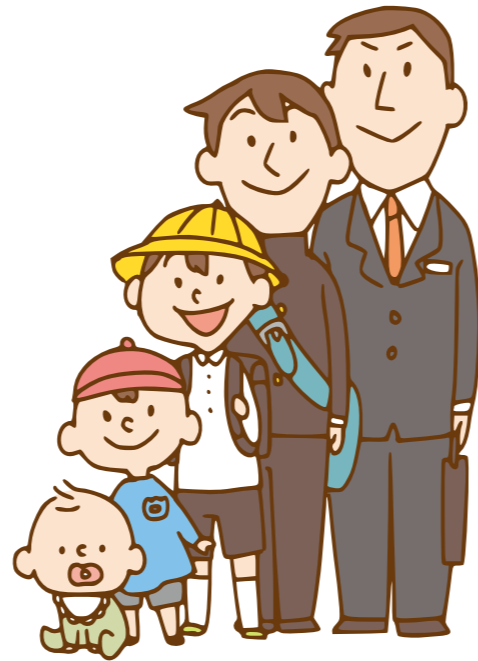
私は働くお母さんが産後1年間家庭で養育できる環境づくりに取り組めます。例えば育児休業を取得するお母さんの勤務する企業や事業者の県民税を減免し、その分を休業保証に充当します。

実行企業、事業所は子育てに理解のある企業として公表、表彰する。そして県の制度融資、入札参加資格審査の加点など有利に取り組む。

さらに多子世帯支援として子どもの多い世帯ほど有利、得をする例えば、県民税、自動車税等の軽減措置といった、熊本モデルの確立に取り組めます。



## 熊本で学ぶ



子どもの数が減少し、県下では高校の学区の見直しが行われ、生徒数や学校間格差が拡大しつつあります。一方で高校への進学率は98%を超えて、小中学校の義務教育段階の学習内容を充分に理解しないまま進学し、学業不振、学校生活不適應といった理由で毎年1,000人前後の中途退学者が出ています。

私は義務教育過程においては今一度、基礎的、基本的学習指導の徹底に取り組み、高校においては、意欲や時代の変化や社会ニーズ、国際化、情報化、科学技術の進歩に迅速かつ柔軟に対応できる体制づくりに取り組めます。

## 熊本で働く

これからは、企業を誘致して雇用を生むという発想から、地場企業やすでにくまもとに進出している企業と、研究機関を持つ大学を結びつける連携が重要なカギになってきます。

産・学・官のトライアングルを一層強固なものにすることで、強く新しい働く場所を誕生させることに取り組めます。



熊本は紛れもなく農業県です。これまでも熊本の経済を支えてきた歴史があります。そこで力強い農業・農村を実現するために意欲ある多様な担い手による、農地開拓や付加の高い、熊本イチオシの売れる農産物づくりを進め、儲かる農業の実現に取り組めます。

元気な水産業を実現するため、覆砂等により漁業環境を整備し、有明海の干潟の再生と機能回復を進め、アサリやハマグリといった採貝漁業やノリ養殖を推進し、儲かる漁業の実現に取り組めます。

## 熊本で歳を重ねる

いきいきと歳を重ねるには、いつでも潜在能力の開発に挑戦し、好きなことを仕事にし、目標を持って『生涯現役』の人生を目指すことではないでしょうか。

私は可能な限り健康を維持し、自立して暮らすことができ、病気になっても住み慣れた地域で質の高い医療、介護サービスを受けることが出来る「まちづくり」に取り組めます。

一方で健康で意欲のある高齢者が、それまでの経験や知恵を活かす。例えば「くまもとシニアバンク」を創設し、専門的なスキルや幅広い人脈を持ったシニア人材を積極的に登用し、企業への働きかけや定年後のUターンを考えている人に対して、地場企業との橋渡しをする機関の設置に取り組めます。



## 高島和男 ストーリー

S39.2.15  
4,000グラムで誕生



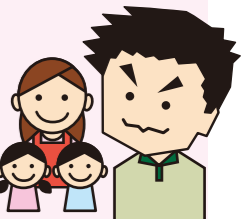
地元の田迎小、託麻中を卒業後、開校間もない熊本西高に入学。高校2年から3年にかけて生徒会長に。この頃から…

大学入学後、あこがれの政治家になることを夢見て、家出同然で寝台列車で一路東京へ。しかし、大学を卒業してから来なさいと諭されて熊本へUターン。



その後大学在学中、野田たけし代議士の選挙事務所でもアルバイトをすることに。

H3年結婚  
2人の子どもが生まれる  
保育園、小中学校、高校までPTA活動に取り組む



野田たけし代議士の秘書を約10年間勤めた後、H15年熊本市議会議員に立候補  
4992票獲得して初当選

2期8年の市議時代  
・熊本城マラソンを議会で提案→実現  
・PTA時代から取り組んだ田迎小の分離・新設  
・スポーツイベント開催  
・地元の広報誌配布を自転車でもまわる(約1万軒)  
・ブログで議員活動の見える化



H23年県議選にチャレンジ。  
446票及ばず落選  
H27年4月12日の投票に向けて活動中